

(電子メール施行)
農技第 1 5 1 7 号
平成27年12月17日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第7号を發表します。

平成27年度病害虫発生予察予報 第7号

向こう3か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
冬(春)レタス	菌核病	やや多	やや多
	灰色かび病	やや多	平年並
	ビッグベイン病	平年並	やや少
	アブラムシ類	平年並	やや少
冬(春)キャベツ	菌核病	やや多	平年並
	黒腐病	やや少	少
	アブラムシ類	平年並	やや少
ハクサイ	黒斑病	やや少	少
	白斑病	やや多	平年並
	べと病	やや少	少
	軟腐病	やや多	やや多
	アブラムシ類	平年並	少
タマネギ	べと病	やや少	少
	白色疫病	平年並	少
	細菌性病害	平年並	平年並
イチゴ	うどんこ病	やや多	平年並
	灰色かび病	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	やや少
	ハダニ類	平年並	やや少
野菜共通	細菌性病害	やや多	平年並
アブラナ科共通	ヨトウムシ類	やや多	—

今後の気象予報 近畿地方 3か月予報

(12月から2月までの天候見通し)

平成27年11月25日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で多い確率50%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。

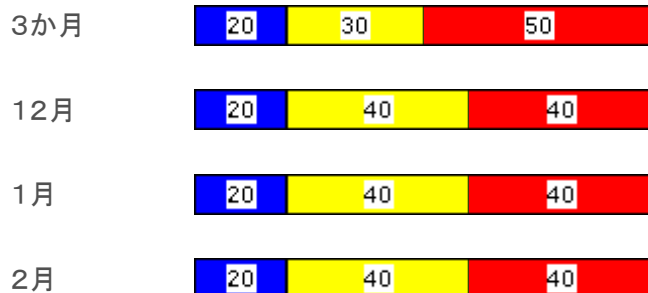
1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

2月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

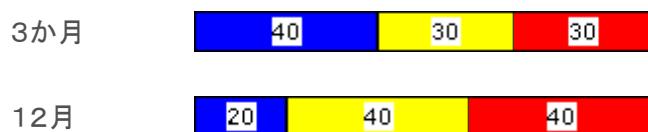
【気温】

[近畿地方]



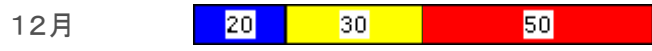
【降水量】

[近畿日本海側]





[近畿太平洋側]



【降雪量】

[近畿日本海側]



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

発生概況及び防除対策上の留意点

冬（春）レタス

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ調査において、例年より早い発生が確認されている。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、レタスほ場ではトンネル被覆によって多湿になることから、発生が助長されると考えられる。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ調査において、下葉での発生が確認された。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、レタスほ場ではトンネル栽培被覆によって多湿になることから、発生が助長されると考えられる。

3 【ビッグベイン病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査では、やや少ない発生であった。発病株率2.4%と同等で、平年並の発生であった。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、平年並の発生で推移すると考えられる。

4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査において、やや少ない発生であった。
- イ 今後トンネル被覆によりアブラムシ類の発生に好適な環境となり、平年並の発生になると考えられる。
- ウ 向こう3か月の気温は平年並または高いと予想されており、アブラムシ類の発生が助長されると考えられる。

冬（春）キャベツ

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の県予察ほ場調査では、発病は認められなかったものの、現地ほ場では例年に比べ早い発病が確認されている、近年本病は増加傾向にある。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、発生は助長されると考えられる。

2 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (3) 予報の根拠
- ア 12月上旬の県予察ほ場調査での発病は発病は認められなかった。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、発生は助長されると考えられる。

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の県予察ほ場調査において、やや少ない発生であった。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または多いと予想されており、発生が助長されると考えられる。

ハクサイ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査において、認められなかった。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、発生は助長されると考えられる。

2 【白斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (4) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査において、発生が認められた。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、発生は助長されると考えられる。

3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査では、発生を認めなかった。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または多いと予想されており、発生は助長されると考えられる。

4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査においては、発生が認められなかった。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または多いと予想されており、発生が助長されると考えられる。

タマネギ

1 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月中旬の南あわじ市野菜病害虫防除推進会議の苗床調査では発生を認めなかった。
 - イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、現況の発生からやや助長されると考えられる。

2 【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 11月中旬の南あわじ市野菜病害虫防除推進会議の苗床調査では発生を認めなかった。
 - イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、現況の発生からやや助長されると考えられる。

3 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 11月中旬の南あわじ市野菜病害虫防除推進会議の苗床調査では、発生ほ場率10%（昨年10.3%）、発病株率0.18%（昨年0.001%）であり、昨年度よりも高い発生を認めた。
 - イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、現況の発生で推移すると考えられる。

イチゴ

1 【うどんこ病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地調査ほ場において、発病が確認された。
 - イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、発生を助長すると考えられる。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地調査ほ場において、発病が確認された。
 - イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、施設内の結露により、多湿条件となることから発生を助長すると考えられる。

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地調査ほ場において、発生が認められた。
 - イ ハウス内はアブラムシ類の発生に好適な環境であり、冬季は土着天敵の活動も期待できないため密度は減少しにくい。
 - ウ 向こう3か月の気温は平年並または高いと予想されており、発生が助長されると考えられる。

4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 12月上旬の現地ほ場調査で、発生が認められた。
- イ 하우스内は、ハダニ類の発生に好適な環境であり、今後は平年並の発生になると考えられる。
- ウ 向こう3か月の気温は平年並または高いとの予想されており、ハダニ類の発生が助長されると考えられる。

野菜共通

1 【細菌性病害（腐敗病 等）】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 今年の気温は、平年より高く推移したことから、平年に比べ秋冬作野菜類（ダイコン、キャベツ、ハクサイ等）で細菌性病害の発病が確認されている。
- イ 向こう3か月の気温は平年並または高い、降水量は平年並または多いと予想されており、今後の気象条件によって多発する恐れがある。
- ウ 地際部や葉柄基部等をよく観察し、初期発生を見逃さないようにすること。

アブラナ科共通

1 【食葉性害虫・ヨトウガ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 11月下旬の現地調査ほ場において、ヨウトウガ、モンシロチョウ等の幼虫の発生が依然としてみられている。
- イ 暖冬の影響と考えられ、向こう3か月の気温は平年並または高いとの予想されており、今後も加害が継続するおそれがある。

*** この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)**